

社会教育について

林 茂

〔質疑〕

(1) 白石市社会教育計画の重点をどこに置いているか。

(2) 少子高齢化、環境問題、国際化、情報化など現代的課題への積極的な取り組みによる新たな事業展開と生涯学習機会の拡大について
(3) 多様化、高度化する生涯学習内容に対する指導者

の育成と人材の確保について

(4) 充実した学習や活動を行うための会場となる施設の整備計画や利用時間の拡大など、学習環境の整備計画について
(5) 今後の生涯学習への基本的な考え方について
(6) 学習成果を地域社会の活性化などに生かすための

乳幼児医療費助成拡充について

水 落 孝 子

〔質疑〕乳幼児医療費助成制度は、年々利用件数が増える一方で1件あたりの給付額は低下している。

安心して受診できるこの制度があることで、早めの受診を促進し、軽度のうちに回復できることで医療費も抑制できる。

乳幼児にも、その家族にも

保険者にもやさしい制度として、制度の拡充への根強い願いが広がっている。
そこで、
① 通院も就学前まで助成する。
② 所得制限の廃止または緩和をすることについて伺う。

今後の取り組みについて
【その他の質問】

VDT症候群と呼ばれる健康被害について

〔答弁〕社会教育計画の重点目標について、地域づくりについては、心豊かで生きがいのある生活の創造と、連帯意識に満ちた活力ある地域づくり、芸術文化の振興及び文化について、遺産・文化財の保護と活用、健康増進と体力の向上を目指す生涯スポーツの推進を重点の目標としている。

〔答弁〕乳幼児医療費助成制度は、子育て支援策として大変有効な施策の一つであるということは認識している。

県においても、一部自己負担の導入を平成19年度は見送ったが、20年度以降の対応について、まだ不確定な要素が残されている。

また、助成を拡充することにより、国民健康保険において、国庫負担金が削減されるというペナルティーがあることから、県の動向及び財政状況を考慮しながら今後検討し

生涯学習事業の展開について
については、ニーズを把握しながら、白石市市民大学を充実させるとともに、女性を対象にした、いきいき女性塾、そして地区公民館では、自主的、主体的に行える事業への支援として家庭教育学級、高齢者学級等を積極的に支援したい。

指導者の育成と人材の確保については、できるだけ地域の人材の活用、応援を得ながら、支援体制をより一層確立したいと考えており、団塊の世代をターゲットにした人材

ていきたいと考えている。

その際の前算については、現行制度で試算する場合は、約3千万円ほどの財源が必要であると算出している。

所得制限該当世帯は94世帯110人である。

なお、少子化対策及び子育て支援は、1市町村での対応というのには限界が来ていることから、全国市長会に、国に対して乳幼児医療助成制度について国の制度として創設するとともに、地方単事業に対する国保の国庫負担金の減

バンクを創設して、支援していただくかと考えている。

今後の生涯学習については施政方針にある、文化の香り高いまちづくりを推進するためにも、生涯学習の展開においては、市長部局と連携を深めながら、市民が本来に必要なとする、あるいは今後とも大切と思うような生涯学習に接する機会を広く設けて、地域の特色を生かした公民館事業の拡大、改善に重点的に支援をしていきたいと考えている。

額措置の廃止など財政支援の充実を図るよう要望しているところである。

